

# 分苑たより

## なごみ

大本  
名古屋分苑

### 分苑長

#### 春季大祭 挨拶

サルートンこんにちは  
キーエルヴィファルタスゴ  
機嫌如何でしょうか。

週間天気予報では雨予報でしたが、今日は雨もなく天気  
に恵まれ、令和七年春の大本  
名古屋分苑春季大祭ならび祖  
霊合同慰霊祭を、本部より東  
海教区特派宣使前田茂太様  
と斎藤保子様にお越し頂き、  
皆様と共に盛大に執り行わせ  
ていただきました。誠にあり  
とうございます。

今年の春は、桜が一瞬にし  
て咲いたように感じられまし  
た。

四月六日、静岡分苑の春季  
大祭と観桜お茶会に行かせて  
頂きました。

この日は、雨の中また高速  
道路ではETCトラブルで行  
きは散々な目に遭いましたが、  
祭典は、掲示板に掲載してい

ますように、男女混合で行わ  
れ、お琴は、中山琴主様の  
「東の名残」を聞かせて頂き  
ました。

御神書拝読では、小学四年  
生の福本純平君、斎藤雅美さ  
んのお孫さんですが動作、拝  
読ともに、ほのぼのとさせて  
頂きました。

先週、亀岡での観桜お茶会  
に行かせて頂きましたが、こ  
の日も雨になりロビーでのお  
茶の接待を頂きました。

名古屋分苑では、今回宣伝  
使の使補で六名・准で四名・  
正で四名、合計十四名の方々  
の推薦状を提出させて頂きま  
したが、全国で二百名の推薦  
があったそうです。これから  
審査されて通知がみろく大祭  
後になるかと思っています。

みろく大祭では、小林清人  
様が人型二十五年度の節目に教  
主様より記念品の授与を承れ  
ます。その他の方達は、私が

預かり五月の月次祭にお渡し  
させて頂きます。

先月は、山田日出男様がお  
亡くなりになりました。名古屋  
分苑規約を編集された方の  
一人で、この規約は現在に至  
っております。

五月は聖地で、教主生誕祭  
とその後に全国愛善歌奉納大  
会、みろく大祭と本部行事が  
あります。玉串参拝をされる  
方は五月三日の月始祭当日ま  
で受付いたします。宜しくお  
願いいたします。

今日は、愛善歌奉納大会の  
練習を直接指導して頂けます。  
斎藤保子先生には本部でも、  
全体練習でしか、指導を受け  
たことが無いのでゆっくりご  
指導をして頂くようにお願い  
いたしました。宜しくお願い  
いたします。

令和八年度、本部の人型用  
紙等の最終締め切りが五月十  
五日になっていきますので、五  
月三日もしくは十日までに枚  
数報告をお願いいたします。  
少し早いですが六月二十二  
日、日曜日には、教本二級認

定講習会を開催いたします。  
また翌週二十八日には東海教  
区特任会議を名古屋分苑で開  
催いたします。

直会后、前田先生より講話  
「健康のため大本のみ教えか  
ら」をお話して頂き、斎藤保  
子先生の直接指導で愛善歌の  
練習をお願いいたします。

本日の春季大祭と祖霊合同  
慰霊祭にご参拝誠にありがと  
うございました。また、直会  
作りに携わった方達、会場準  
備に携わった方達お疲れさま  
でした。有難うございました。  
コーランダンコン

### 行事報告

#### ●誠心会活動報告

三月二十九・三十日、綾部  
梅松苑に於いて第二十一回誠  
心会員研修会が行われた。

二十九日は天王平の奥津城  
から信徒共同墳くらいまでの  
間の枯れ枝撤去の献勞奉仕、  
夜は懇親会で活動報告の意見  
交換、翌三十日は四方道広祭  
祀センター長による「綾の郷  
整備事業推進状況」の説明が

行われ、引き続き会員による  
ご神徳談の発表、佐々木敏郎  
大本楽天社代表による「献詠  
歌の作り方」講座を拝聴した。

その後、会員の作った「綾  
の聖地エルサレム大本歌祭り」  
の献詠歌の添削、アドバイスを  
熱心に送って頂きました。

最後に五月四日の全国愛善  
歌奉納大会に向けて、誠心会  
のテーマ曲である「黄金」を  
練習して閉会式後、解散をし  
た充実した二日間でした。

#### ●月始祭 四月五日（土）

|     |       |       |
|-----|-------|-------|
| 参加者 | 十八名   | 参加者三名 |
| 斎主  | 小林 清人 |       |
| 祭員  | 日比 達朗 |       |
| 祭員  | 畠山 亜美 |       |
| 進行  | 天野 芳幸 |       |



●春季大祭・祖霊合同慰霊祭

四月二十日（日）に本部より前田茂太特派宣使、斎藤保子様をお迎えして、大神様斎主・高嶋善雄分苑長、慰霊祭斎主・妹尾正治特任のもと厳粛に執行され、祭典後には八雲琴「古人今様」が奉納された。

直会后、前田茂太特派宣使による記念講話「健康のため大本のみ教えから」を聴講、引き続き斎藤保子様の指導により、愛善歌「救霊」を練習した。

その後、誠心会による福引が行われ、神饌物のお下りの鯛、お餅、お神酒の景品が当選者に渡され、楽しいひと時を過ごした。

執行委員長 堀 健太郎  
副執行委員長 近藤 哲史  
参拝者 六十八名  
(大祭関係者含む)



☆大祭前日は十時から直心会・準備委員により、分苑内の清掃・祭典準備が行われた。



行事予定

五月十八日（日）

月次祭 午前十時半より

五月二十五日（日）

東海教区 青松会錬成道場  
(三河本苑主催)

六月七日（土）

月始祭 午後一時半より

忍び草

分苑直属

大西 澄子 毘女

享年 九十五歳

令和七年四月十三日 帰幽

謹んで哀悼の意を表します

じいじの道草雑話

【病は気から】

特任宣使 妹尾正治

『敗血症になつて四十度近い熱が二週間続いて、薬を変えても効かなかった時は、さすがに死を思いましたね、それでも毎日が生き生きとしていました』

俳優佐野史郎さんは続ける『病気を治すことは一つのドラマなんです、主治医は監督、インターンは助監督、リハビリは脚本家、衣装・照明などの看護師さんと主人公の私』

『完治するまでの壮絶なドラマを演じきって今がこうして有ります、とても生き生きしていましたよ』

じいじも三十年ほど前、C型肝炎の治療の一年間に佐野さんと同じような感覚を覚えていた事を思い出しました。

一週間に三回のインターフェロン注射治療なのですが、受けた後三時間ほどで必ず四十度近い高熱が出て歯が噛合わないほどの悪寒がはりました。

治療終盤の頃になると血中ウイルスはゼロになりましたが、その一年後には又元の数値に戻ってしまいました。

二回目はペグインターフェロン治療で、発熱は無いものの強烈な食欲不振に襲われ半年余りは流動食しか喉を通りませんでした。

じいじにとつて二回のC型肝炎治療はウイルス退治のゲーム感覚でした、そう思わないとギブアップしそうなもう一人の自分がいたからです。

完治したあとの楽しみを見据えて戦いつづけた、そして勝利を家族と共に勝ち取りました。

『治すんだ、治して家庭を守るんだ！』その信念が完治に繋がったと思います。

病は気からと言いますが「治るのも気から」を実感しています。

